

労働災害防止推進大会

と き 2025年1月17日

と ころ ホテル ハイマート



高田労働基準協会

労働災害防止推進大会 次第

1 開会あいさつ

高田労働基準協会会長

株式会社 ダイセル新井工場

執行役員
工場長

池田 信彦

2 来賓祝辞

上越労働基準監督署

署 長

小林 要介 様

3 上越労働基準監督署ご指導事項

上越労働基準監督署

安全衛生
課 長

大湊 数朗 様

4 大会宣言

5 安全祈願

八坂神社 宮司 様

玉串奉奠 池田会長・小林署長

閉 会

安全優良職長厚生労働大臣顕彰 おめでとうございます



日鉄工材 株式会社
塚田 克俊 様

令和7年1月10日、令和6年度安全優良職長労働大臣顕彰者として、日鉄工材株式会社（上越市川原町）所属 塚田 克俊 様が顕彰されました。

当協会会員事業場での顕彰者は、3年振りの栄誉となります。

厚生労働大臣顕彰は、平成10年から実施されているところでありますが、①職長等としての実務経験が10年以上、②過去5年間以上、休業4日以上の災害が発生していないこと③職務に必要な資格（免許、技能講習及び特別教育）を有するとともに、安全管理、作業指揮等の能力が優秀であること④安全管理に関する部下の指導教育又は安全管理に関する知識・技能の普及や継承に積極的に活動していることなどが顕彰基準となっています。

安全管理優良事業場 受賞 おめでとうございます



光陽産業株式会社 上越工場 様

既に、「労働基準ユース10月号」紙面で受賞がご紹介されていますが、令和6年度第74回新潟県労働安全衛生大会において、安全管理優良事業場として受賞されました光陽産業(株)上越工場では、安全衛生管理者の選任、各危険作業有資格者の充足、毎月の安全衛生委員会の開催など安全衛生管理体制が十分に確立され、更に、毎年「全国安全週間」においては、社員全員参加の「安全大会」を外部講師を招聘して実施し、労働者一人ひとりの安全意識の高揚を図っています。その結果、2017（平成29）年9月27日（休業4日以上は2013年1月以降）より無災害を継続しており、その功績が顕著であることから受賞されました。



大 会 宣 言

～ 労働災害防止の誓い ～

2025年は戦後80年の節目の年ではあるが、ウクライナの戦火はなおやまず、核兵器使用を示唆する動きも垣間見える不穏な情勢下にある。一方、日本経済においても、依然として円安、原油高、原材料・資材・物流費の高騰をはじめとする物価上昇など先行きに不安を残す状況下であり、世界経済においても、アメリカ合衆国大統領の交替による大幅な関税引上げをはじめとした自国最優先主義の方針により混沌とした年のスタートとなっている。

加えて、「2025問題」と呼ばれている団塊世代が75歳となり、より一層の日本人口構成の少子高齢化により、労働者の高齢化並びに労働力不足も近年の課題となっていることを踏まえるならば、如何に労働力を確保するかは視点も必要不可欠であり、かつ、これまでの経験を踏まえた労働者の知識、技術力、日常的な安全衛生活動などを如何に継承するかも課題となっている。

このような先行き不透明感が強く、非常に厳しい困難な情勢下ではあるものの、私達が安全と健康を確保し快適な職場を形成することは、そこで働く労働者のみならず、企業経営にとっても労働の効率化や生産性の向上をもたらす重要なことであり、崇高な目標である「労働災害はあってはならない」「おこしてはならない」ことは、些かの揺るぎない目標であることは言うまでもない。

しかしながら、労働災害は依然として後を絶たない状況であり、2024年には上越労働基準監督署管内で7名の方の尊い命が失われた結果となっているが、この数値は2004（平成16）年に年間死亡労働災害件数が1桁になって以降、最高値であることを真に「危機的状況」と言わざるを得ない状況であり、死亡労働災害が発生することは、只単に、お亡くなりになった労働者の人生を変えたのみでなく、ご親族はじめ関係者の方々のそれまでの日常生活とその後の人生を一変させてしまっていることを強く認識しなければならない。

また、2023年にスタートした第14次労働災害防止計画においては、厚生労働省では「2027年迄には死傷災害を減少に転ずる」旨の目標を掲げているところであり、上越労働基準監督署管内での2024年の休業4日以上労働災害死傷者数は、前年比でマイナス22人、率にしてマイナス8.5%の速報値が報告されており、減少傾向を示している状況ではあるものの、あくまでも私達の崇高な目標は「災害ゼロ」であることは言うまでもなく、更なる安全衛生管理体制の強化と安全衛生活動の充実を図り、労働者一人ひとりの「安全・安心」への認識をより高めることにより、各事業場が「災害ゼロ」を達成するかが問われている。

そのためには、まずは経営トップ自らが強い意思で「災害ゼロ・快適職場の形成」を表明し、労働者一人ひとりが参加する安全衛生活動の更なる活性化の必要があるとともに、職場での安全衛生教育を徹底することにより安全意識の高揚を図り、職場における潜在的な労働災害発生リスクを取り除く不断の努力を継続するボトム・アップを推進することにより、労働災害発生リスクへの感受性を研ぎすますことが重要である。

よって、ここに決意も新たに労働災害防止のため誓うものである。

- 一 経営トップ・幹部は、まずは「災害ゼロ」「安全・安心職場の形成」を宣言し、自ら率先して心身両面にわたる健康づくりと、効果的な自主的安全衛生管理活動を徹底する。
- 一 「危険の見える化」「ヒヤリ・ハット報告活動」「異常時の対応」など、基本的な労働災害防止活動により、危険情報を全員で共有化する。
- 一 一人ひとりの主体性をより一層高め、労働災害発生リスクに対する感受性のスキルアップを図るとともに、不安全行動・不安全状態の排除を徹底する。

2025年1月17日

上越労働基準監督署管内
上越市・妙高市事業場一同

令和7年 労働災害防止推進大会

～ 大会スナップ写真 ～



池田会長（株）ダイセル執行役員 新井工場長）の 開会挨拶



上越労働基準監督署長 小林 様 からの御来賓ご挨拶

～ 安全祈願 ～



安全祈願を執り行う 八坂神社宮司



上越労働基準監督署長 小林 様 の 玉串奉奠



池田会長（株ダイセル執行役員 新井工場長）の玉串奉奠



労働災害防止推進大会 会場